

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分自身が入居するのであれば、どのようなホームで、どのようなケアを受けたいかという視点で考え、分かりやすく短い言葉にまとめた理念が作り上げられています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念にある「優しさ」の意味を考える場を設け、利用者・家族・職員に優しいホームづくりをされています。また、理念にある「お一人おひとりの身になって」の具体的な取り組みとして、センター方式のアセスメントの活用がされています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	面会、行事、運営推進会議の他、地域のスーパーやコンビニエンスストアにお便りの配布を行い、地域住民へホームの理念や取組みを理解してもらうための働きかけが行われています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加、公民館の草取り、ホーム主催の音楽会への中学校の招待、中学校の音楽会への参加、近隣の商店との交流などが積極的に行われていますが、事業所からの働きかけだけでなく、日常的に近隣の方に来てもらえるようになることが今後の課題となっています。		今後予定されているイベントを活用し、近隣の方の事業所や認知症についての理解を高めることで、より身近な存在となるよう、継続的な努力を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の際、改善点としてあげられた項目に対し、着実にの取組みが行われています。また、今回の評価の自己評価の意義を全職員が理解し、全職員で取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の結果、除雪や伐採の働きかけなどの自治会長の協力を得たり、行政のホームに対する理解が高まるなどの成果が得られました。また、会議で出た意見から、化粧やマッサージの取組みも始められました。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	阿賀野市で計画しているフィンランドプロジェクトのモデルケースとなったことで、市の担当者との交流が密になり、地域の福祉サービスの質の向上のために相互に協力し合う関係が作られています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の他、日常の中で、声掛け等が精神的な虐待になっていないか職員相互に注意を払い、少しでも気になる場面があれば、即指導するような関係作りがされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の家族宛の手紙、頻繁な電話でのコミュニケーションの他、希望される家族には、携帯電話のメールにて利用者の様子を写真付きで伝えるなどの工夫をされています。また、個人アルバムを作成し、家族への送付も行われています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談箱、面会、カンファレンス、運営推進会議の他、年2回「家族の集い」として家族会を行っています。出席率の改善に課題が残ります。		イベントと同日に「家族の集い」を開催するなどの出席率改善の取組みを今後も継続されることを期待します。
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・要望を職員が用紙に記入し、理事長に提出する取組みを行った結果、最近では理事長や管理者に直接意見や要望を言える体質が作られています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	経過記録や申送りなどを具体的に詳細なものにすることで、どの職員が対応しても同じケアが行えるようにされています。また、やむを得ず異動が生じる場合は、異動する職員と新任職員を重複して勤務する期間が設けられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	必要なマニュアルは完備されており、より実態に即した分かり易いものへと改良する取り組みも行われております。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた外部研修への参加、その後の伝達研修が行われています。伝達研修は研修を受けた職員が理解した上で、噛み砕いて説明されるため分かり易いという職員からの意見がありました。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国組織、新潟県の同業者ネットワークに加入している他、地区のグループホームの生活相談員、介護支援専門員との交流会があり、意見交換や相談が行われています。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1時間の交代での休憩や休憩所の確保とともに、職員から運営者、管理者への意見、要望を書面で提出するツールを活用することから始め、現在では職員と運営者・管理者、職員間で悩みや相談を気軽に話せる環境づくりがされています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	泊まり体験や併設デイサービスの入居前利用の他、利用者への声かけに関しても家族と綿密な打合せを行い、納得や安心を高めていく工夫がされています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の状態に合わせて、役割を行ってもらい、職員と共に生活することが日常的に行われているため、職員が生活の知恵や私生活におけるアドバイスなど、人生の先輩として利用者から教えてもらう関係が構築されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、電話等、綿密に利用者家族とコミュニケーションをとることで、家族と共に利用者を支えていく関係が構築されています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や家族の話しから得た情報を申し送りとして詳細に記入し、職員間で共有がされています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のケアプランの活用を基本として、利用者との会話や家族の話しから得た情報を蓄積するようされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスへの出席が困難な家族へも、介護計画の立案に加わっていただくよう、来訪時に介護計画に関する意見や要望を伺うよう工夫されています。ユニット会議にて職員間の意見交換が行われているため、他のユニット担当者からの意見の反映に課題が残ります。		検討されている全体会議を開催し、多くの職員から様々な意見を介護計画に反映することを期待します。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回カンファレンスを開催し、見直しを行うのみならず、毎日の経過記録の記入が評価として機能し、状態やニーズと計画にギャップが生じる場合は即座に見直しが行われています。また、計画の作成についても、現実離れた理想的な計画ではなく、最優先課題を明確にして、利用者が一歩ずつクリアできるような工夫されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診、1日の流れなど少人数であることを活かし、可能な限り利用者、家族の希望に添えるようされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関にて受診してもらい、付き添う家族を介して情報交換が行われています。また、家族の付き添いができない場合は職員が直接状態の説明を行うなどの対応がされています。事業所と近隣の医療機関との関係構築に課題が残されています。		現状を踏まえると、近隣医療機関との関係構築は、一筋縄にはいかないこともあるかと思いますが、関係者も巻き込み継続的に働きかけをされることを期待します。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとしての役割を踏まえた上で、可能な限り家族の希望を尊重し、医療機関との連携を図りながらの対応がされていますが、その際、同意書などの書面の整備が現状されていません。		重度化や終末期の対応は、デリケートな問題です。綿密なコミュニケーションと共に、書面としてきちんとした形を残し、家族と事業所が共に安心して利用者に接することができる体制作りを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的な個人情報の取扱いや羞恥心への配慮は徹底されています。また、入浴の同性介助への取り組みの結果、今までは聞かれることの無かったニーズが利用者からだされるようになりました。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、利用者の希望を優先することが全職員周知徹底されています。インフルエンザへの配慮から外出を控えなければならないなど、やむを得ず希望に添えない場合は、きちんと説明をし、理解を得るような努力がされています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1度、希望献立の日を儲け、聞く機会を作ること、希望を言えるよう配慮されています。また、採りたての野菜を予定の献立に加えるなどの工夫もされています。準備、食事、後片付けも職員と状態に合わせて利用者が協働で行われています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつの使用を減らせるような取り組みや、夜間の失敗の際、隠さなくてもいいよう、部屋に入れ物を置く工夫などがされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のスケジュールは作成するものの、希望や気持ちを尊重して柔軟な対応が図られています。また、入浴に関するきめ細やかな記録を残すことで、声かけの仕方やタイミングが職員間で共有されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の希望や生活歴をもとに、それぞれが得意とする個別の役割の支援が行われています。イベントは予定にこだわらず、天気に合わせて柔軟に予定変更がされています。また、月に1回は個々の希望を叶える取組みがされています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が一人で外に行きたいという気持ちも受け止め、止めることはせず、見守りを行うなどの援助をされています。また、状態や安全に配慮した上で、可能な限り買い物などの外出の機会を設けています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを通じ、全職員が身体拘束による弊害を理解し、拘束しないケアが徹底されています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家庭と同じ生活を送ってもらうことが基本的な考えとしてあり、施錠はされていません。転倒や行方不明に対しては、職員の付き添いや見守りでの対応がされています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	看護師からの内部研修、ヒアリハット・事件事例の検討と改善策の実施した後の結果の報告と共有など、少しでも不安を解消できるよう取組みがなされています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の研修が行われていますが、未受講の新人職員もおります。		繰り返し行うことで、未受講者をなくしていくこと、既に受講された職員もさらに技術を向上されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	6ヶ月に1回の避難訓練の他、1ヶ月に1回、看護師や消防署の協力を得て、さまざまなケースを想定した訓練が行われています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の栄養・水分量チェック、1日30品目以上の献立、栄養士の指導が行われ、食事を通じた体調管理が徹底されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の数箇所にソファが配置され、休んだり集ったりすることができるよう配慮されています。また床暖房や加湿器による湿度対策も行われています。また、装飾は華美にならず、程よい程度に利用者の作品などが飾られています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団やベッド、持込むものの数など、利用者の希望に応じて、それぞれが個性的な部屋になっています。		